食品の香りとともに100年 食文化を牽引する開発主導のオンリーワン企業

日本フレーバー工業株式会社

日本フレーバー工業の創業は古く、1912（明治45）年、山崎喜久太氏が横浜で山崎香料店を開業したのが始まりだ。以来、今日まで100年以上に渡って、果実を原料にした香料の製造・販売を続けてきた。

香りは私たちの生活の中に無くてはならないものだが、香料のうち香水やトイレタリー商品などはフレグランス、飲料やゼリー・製菓などへ添加する食品用香料はフレーバーと区別されている。同社が製造・販売しているのは果物など自然の素材を原料にした天然のフレーバーである。

100年の歴史を誇る同社の強みは、高い技術力と商品

●社是・理念

【社是・経営理念】敬天愛人
敬天愛人をモットーとし、科学主義経営を実践し、真のフレーバーを世界に提供します

代表取締役社長
上木　邦彦 氏

開発力だ。「香りをつくるフレーバーリスト（調香師）が、徹底した品質管理のもとで最新の設備を用い、熟練した技術力で生み出すフレーバーは、そう簡単に真似することは不可能」と上木邦彦社長は自信をもっている。さらに、商品開発力と同時に、世界各地から取り寄せた原料を、同社の工場設備で蒸留・抽出加工し、独自のフレーバーに仕上げる一貫製造の技術も、同社の競争力を高めている。

◉転機となった生産拠点の見直し

今でこそフレーバー分野では国内トップメーカーとして活躍している同社だが、上木社長が就任した2000年当時は経営的にも厳しい状況だった。香港の工場での累積赤字が大きな負担となり、存続か廃止か、大きな決断を迫られていた。上木社長は前社長のグローバル路線を見直し、黒字転換が難しい、海外生産拠点の売却に踏み切った。

海外事業の見直しと同時に、国内生産拠点の見直しも行い、国内工場を新設した。その直後、大手飲料メーカーからの大口注文を受け、新設した三田工場はフル稼働とな

様々な原料を駆使して香料を創る

兵庫県三田市テクノパークにある三田工場

り、売り上げを伸ばした。「あの時、新工場がなかったら、お客様の注文に対応することができなかった」と上木社長は当時を振り返る。

大きな転機を乗り越えた今、上木社長は「会社が存続していくためには発展が不可欠であり、そのためにはお客様満足が必須である。そのお客様満足の実現のためには社員満足が必要不可欠である。この考えから、社員満足が最も大事だと考え、実施している」と話す。「人が間違える仕事はＩＴに任せ、人にしかできない仕事をする。開発主導であるためには、やはり社員一人一人の力が大切」と言う。

特に一人前の調香師となるためには、時間がかかる。育児や介護が必要な社員は時短勤務にしたり、サテライトオフィスの導入にも積極的だ。「発展なくして存続なし、そのためには社員満足が大事である」というのが、上木社長のモットーである。

●長寿の秘訣

食品や飲料の美味しさを決めるフレーバーの世界。香りをつける着香、付香だけでなく、もともとの素材の臭みを消すマスキング力もあり、奥が深い。特に日本人は自然の素材を好み、天然嗜好が強く、同社が製造する天然素材の香料は、合成香料に比べると強い競争力をもっている。長寿の秘訣はこの難しい「香り」の世界に特化して、創業以来、コツコツと蓄積してきたあらゆるノウハウの力にある。

本社オフィスのエントランス

●会社概要

創　　業：1912（明治 45）年 10 月
所 在 地：東京都港区高輪 2-20-31
事業内容：食品香料の開発製造販売
資 本 金：6,000 万円
社 員 数：48 名

URL：http://www.nfk-group.co.jp/